

日時：令和3年10月26日（火）
10時00分～12時00分
場所：大和信用金庫 八木支店 3階 第1会議室

第5回 橿原市教育施設再配置検討審議会

次 第

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| 1 開会 | 10:00～10:10 |
| 2 議事 | |
| 1) 橿原市教育施設再配置実施計画の方向性について（答申書案） | 10:10～11:40 |
| ・再配置実施計画（第1期）について | 資料説明：30分程度 |
| ・再配置実施に伴って生じることが想定される諸課題への対応について | 質疑応答：60分程度 |
| 3 その他 | 11:40～ |
| 4 閉会 | ～12:00 |

・配布資料

次第

資料 00_本検討審議会の委員名簿（令和3年5月更新）

資料 01_橿原市教育施設再配置実施計画の方向性について 答申書（案）

補足資料 01_本検討審議会への諮問事項と基本的な考え方の整理

補足資料 02_第2期の児童生徒数推計値

補足資料 03_「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」中間報告【概要】

本検討審議会の委員名簿（令和3年5月更新）

所属・役職	氏名
学識 (元奈良県教育長)	フジワラ アキラ 藤原 昭
学識 (奈良教育大学 名誉教授)	シゲマツ ケイチ 重松 敬一
学識 (奈良芸術短期大学 副学長)	アマネ トシハル 天根 俊治
学識 (天理大学 副学長)	オカダ タツキ 岡田 龍樹
学識 (元 大阪市教育委員会事務局総務部長)	ツルタ マサノリ 鶴田 勝紀
橿原市自治委員連合会会長	マスカニ サチヨ 榎谷 佐千代
橿原市自治委員連合会副会長	ヨネカワ ノヒサ 米川 憲久
橿原市自治委員連合会副会長	オダ マスオ 尾田 増夫
橿原市PTA連合会代表	タツミ タカオ 辰巳 隆雄
橿原市議会 代表 (議長)	ハラヤマ タイスケ 原山 大亮
橿原市校長会代表 (小学校校長会)	ホリモト サトコ 堀本 知子
橿原市校長会代表 (中学校校長会)	モリモト カズヒト 森本 和仁
労働者 代表(橿原市労働者福祉協議会)	サンダ タケシ 三田 剛史
公募委員	ヤマナカ フミヨ 山中 文代
公募委員	カジマ マサオキ 仲嶋 正起

以上、15名

令和3年10月26日

令和 年 月 日

檀原市教育委員会 教育長 深田 展巧 様

檀原市教育施設再配置検討審議会

会 長 藤原 昭

檀原市教育施設再配置実施計画の方向性について
答申書（案）

令和2年2月25日付、檀教総第200号で諮問のあったことについて、慎重に審議を行った結果、次のとおり答申します。

橿原市教育施設再配置実施計画の方向性について（答申）

I. はじめに

近年、小学校・中学校の義務教育段階において、児童生徒数が減少する一方で、保幼小の連携や、小学校と中学校の円滑な接続、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、ICT教育の充実など、教育的課題が山積している状況です。

このような中、橿原市教育施設再配置検討審議会は、令和2年2月25日付けで下記の事項について諮問を受けました。

- (1) 2025年度までの橿原市立学校の再配置実施計画（第1期）に関する事項
- (2) 再配置実施に伴って生じることが想定される諸課題への対応に関する事項

令和2年2月から5回にわたる審議を行った結果、橿原市においても児童生徒数が減少し、小規模化が進んでいる学校があることや、校舎の老朽化が進んでいることなどが課題となっていることが明らかになりました。これらの課題に対応するためにも、教育施設の再配置を進めていく必要があると考えます。

橿原市の実情を鑑みると、小規模化した学校を再編することで、適正な集団教育活動が可能となることに加えて、1校あたりの教職員数も増え、校内での研修や情報交換などが活性化して教職員のスキルアップにも繋がる教育環境への改善が期待されます。

貴職におかれては、本答申を受け、総合的な教育施設再配置実施計画を速やかに策定され、当初の目的が達成できるよう、最善の努力をされるよう望みます。

Ⅱ. 各答申内容

(1) 2025年度までの檀原市立学校の再配置実施計画（第1期）に関する事項

①第1期の再配置対象校について

檀原市内の小中学校では、既に複数の学校が小規模校となっていますが、すべての学校の再編を同時に進めていくことは困難であるため、まずは、白檀南小学校と白檀北小学校を再編対象校として、第1期実施計画の策定を進めてください。両校では、殆どの学年で単学級となっており、特に小規模化が顕著に現れていることから、檀原市内でも第一に再編を実施する必要があると考えます。

なお、第2期の実施計画案についても、第1期実施計画の再編に着手されると同時に、検討を開始されることを望みます。

②白檀南小学校と白檀北小学校の再編について

・再編内容及び時期に関すること

既に小規模化が進んでいる白檀南小学校と白檀北小学校の再編内容・時期については、令和6年度に白檀南小学校地で2校を統合し、その後、改修完了後の令和7年度に白檀北小学校地へ移転して学校運営を行えるよう進めてください。

再編までのスケジュール（予定）

令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度
実施計画策定	白檀北小の改修設計	白檀南小の改修	白檀北小の改修工事	改修後の白檀北小で運営
住民説明	再編校の体制等検討 (学校の名称・校歌 など)		白檀南小で統合校開校	
		南小へ	北小へ	

・施設整備に関すること

新たな学校としてスタートする学校施設は、今後も長きにわたり地域における教育活動の拠点としての機能を担うこととなります。児童がよりよい教育環境の下で、安全・安心に学校生活を送れるよう、施設の老朽化改善や教育環境の改善のための改修工事を行ってください。改修内容は檀原市が目指す教育環境実現に向けた内容を検討してください。その際には、令和6年度末に行う白檀北小学校地への移転作業がスムーズに行えるように、工事期間を配慮されることを望みます。

- ・施設の複合化に関すること

現在、白櫃南小学校には放課後児童クラブが隣接しています。放課後児童クラブについては、統合後の白櫃北小学校舎へ複合化できるよう、整備の検討をしてください。

- ・通学路に関すること

現在の白櫃南小学校区の児童は新たな通学路となるため、児童の安全面に配慮する必要があります。新たな通学路の設定にあたっては、既存の通学路を可能な限り使用するとともに、安全に登下校できる通学路を検討してください。通学方法については、最長の通学距離が約2km以内となることから、徒歩での通学が可能なエリアだと考えます。

- ・児童への配慮に関すること

2つの学校を統合することで、児童が不安を抱くことなく、新たな学習環境の下で学校生活を円滑に送ることができるよう配慮する必要があります。

例えば、統合前から学校行事などを通じて児童同士の交流の機会を創出すること（ICTを活用した交流、校外学習、遠足等）や、統合前から在籍している教職員を適正化後の学校にも一定数配置するなどの対応を検討してください。

また、統合後についても、不安や悩みを抱える児童をケアできる体制を整えてください。

- ・白櫃南小学校の跡地活用に関すること

学校は、教育施設としての機能だけでなく、これまで防災や地域コミュニティの拠点としての役割を果たしてきたことから、再編により、使用しなくなる白櫃南小学校については、地域の方々の意見も踏まえ、幅広い視点から有効に利活用できる方策を検討してください。

・再編までの協議事項に関すること

統合校の開校までには、下表に示すとおり、ハード面・ソフト面ともに様々な検討が求められます。児童にとってよりよい学校となるよう、学校、PTA、地域などと協力しながら、検討を進めてください。

同時に、学校統合は地域全体に影響する検討事項も多くあるため、地域内の各種団体との協議も進めてください。

なお、今後、統合後に再び小規模校となり、再度の再編を検討する必要性が生じた場合には、近隣学校区の人口動向や地域の実情を踏まえて、中長期的な視点で慎重に検討してください。

統合校の開校までに必要となる協議事項（一例）

協議事項			関係者		
項目	事項	内容	学校	PTA	地域
通学	通学路	安全対策	●	●	●
		通学方法	●	●	●
総務	学校の名称、校章、校歌等	学校の名称	●	●	●
		校歌・校章・校旗・校訓	●	●	●
	式典行事	閉校式・開校式	●	●	●
		学校歴史等の継承	●	●	●
	制服、体操服など	制服・体操服・名札等	●	●	●
学校運営	学校運営方針・教育目標・教育課程及び学校行事	学校運営方針	●		
		学校教育目標	●		
		年間計画・学校行事計画	●	●	●
教育活動、地域交流	児童の交流活動	児童の交流	●	●	●
	学校生活のきまり	生活について	●	●	
		学習について	●	●	
学校事務	学校備品、保存文書の整理	学校図書	●	●	
		一般備品	●	●	
	卒業アルバムなど	行事写真、卒業アルバムなど	●	●	
PTA	PTAの組織運営	組織編制	●	●	
		規約	●	●	
		役員の選出方法	●	●	
		事業計画の立案	●	●	
その他	放課後児童クラブ	放課後児童クラブの併設	●		●

(2) 再配置実施に伴って生じることが想定される諸課題への対応に関する事項

【これからの学校のあり方を踏まえた諸課題への対応について】

①新しい時代の学びへの対応について

Society5.0時代やウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えて、子どもたちの学びの在り方が大きく変わろうとしています。学校においては、情報端末や空き教室等の積極的な活用や、地域コミュニティの人たちと連携・協働して活動や交流を行う共創空間の創出などが求められています。

今後、学校を再編し、校舎の改修等を実施する際には、老朽化対策と併せて教育環境の向上を一体的に進められることを望みます。

②小中一貫教育について

学校は単に児童生徒の教育の場だけでなく、地域コミュニティの拠点や災害時での避難所など、多様な機能をもっています。そのため、学校の再編を進める際には、保護者・地域住民の理解を得ながら進めていく必要があります。

そこで、学校の再編を検討する際には、学校同士の統合だけでなく、小中一貫教育（小中一貫型小・中学校、義務教育学校）についても検討することが望ましいと考えます。

小中一貫教育で期待される教育的な効果の一つに、中一ギャップの克服があります。小学生が、中学生とともに学校生活を送ることで、中学校生活のイメージを持ちやすくなります。また、9年間を一体として捉えた教育により、中学校の学習にもスムーズに移行できます。さらに、教職員の交流の機会も多くなることで、学習面だけでなく、生活面、心理面などにおいてもより丁寧な指導や対応ができるようになると考えられます。このように、中学校入学以降の学習や生活への不適應感を解消し、義務教育の9年間を通して培う力を連続的・系統的に育成することが期待されることから、小中一貫教育についても検討を進めてください。

なお、その際には、市内公立小中学校で教育格差が生じないよう十分配慮してください。

③地域みんなで考える学校づくりについて

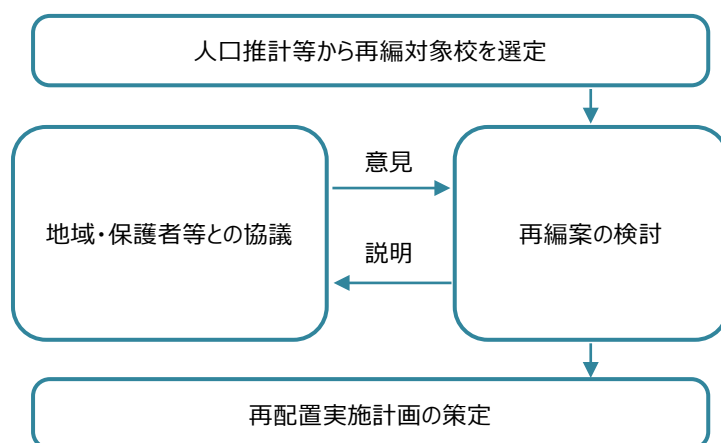
学校が抱える複雑化・困難化した課題を解決するとともに、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていくためには、地域住民や保護者の参画・協力が必

要です。学校と地域が一体となって、これからの学校について話し合う場として、「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」の導入も視野に入れて検討していくことが重要と考えます。

【第2期の再配置実施計画に向けて】

①再編の検討手順について

第2期の再編を検討するにあたっては、白樫南小学校と白樫北小学校の再編を検討してきた手順を参考としながら進めてください。



②再編後の施設形態について

再編後の施設形態（校種）については、小学校、中学校、小中一貫型小・中学校、義務教育学校などが考えられます。再編の実施時期や子どもたちの様子、学校現場の実情などに配慮しながら、どのような施設形態が適切なのか、柔軟かつ慎重な検討をされることを望みます。

③保護者や地域との協議等について

教育施設再配置実施計画（第2期）の策定にあたっては、様々な検討事項に関して、保護者や該当地域、関係機関に丁寧な説明をし、十分に協議を重ねながら進めてください。また、対象校の教職員にも進捗状況などを説明し、保護者や地域から学校への問い合わせがあった場合にも対応できるようにしてください。市、保護者、学校、地域が一体となり、意思疎通を図ったうえで再編についての検討を進めていくことができる体制を目指してください。

Ⅲ. おわりに

本審議会は、櫃原市において生じている、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化等の現在や将来にわたる教育の諸課題への検討を踏まえ、教育施設の再配置について議論を重ねてきました。再配置では、学校の位置や通学方法などさまざまな課題が発生します。それらの課題を解消し、多様な教育的ニーズや地域の実情を勘案しながら、より良い教育環境を整備すること、義務教育段階において教育内容を充実させ、子どもたちのより一層の成長に貢献することを願って本答申をまとめました。

貴職におかれては、この答申を尊重され、今後の施策に反映されるよう最大限の努力を尽くされることを望みます。

橿原市教育施設再配置検討審議会委員名簿

所属・役職	氏名	委嘱期間
学識（元奈良県教育長）	藤原 昭	令和2年2月3日～令和3年●月●日
学識（奈良教育大学 名誉教授）	重松 敬一	令和2年2月3日～令和3年●月●日
学識（奈良芸術短期大学 副学長）	天根 俊治	令和2年2月3日～令和3年●月●日
学識（天理大学 副学長）	岡田 龍樹	令和2年2月3日～令和3年●月●日
学識（元大阪府教育委員会事務局総務部長）	鶴田 勝紀	令和2年2月3日～令和3年●月●日
橿原市自治委員連合会 代表	米田 勝彦	令和2年2月3日～令和2年6月22日
	榑谷 佐千代	令和2年6月22日～令和3年●月●日
	米川 憲久	令和2年2月3日～令和3年●月●日
	仲川 八郎	令和2年2月3日～令和2年6月22日
	尾田 増夫	令和2年6月22日～令和3年●月●日
橿原市PTA連合会 代表	柿本 健三	令和2年2月3日～令和3年5月22日
	辰巳 隆雄	令和3年5月22日～令和3年●月●日
橿原市議会 代表	榎尾 幸雄	令和2年2月3日～令和3年2月24日
	原山 大亮	令和3年2月24日～令和3年●月●日
橿原市校長会 代表 （小学校校長会）	吉田 智子	令和2年2月3日～令和3年4月1日
	堀本 知子	令和3年4月1日～令和3年●月●日
橿原市校長会 代表 （中学校校長会）	加藤 雅菊	令和2年2月3日～令和2年4月1日
	狩野 晃三	令和2年4月1日～令和3年4月1日
	森本 和仁	令和3年4月1日～令和3年●月●日
労働者 代表	竹中 基展	令和2年2月3日～令和2年4月1日
	菱田 工	令和2年4月1日～令和3年4月16日
	三田 剛史	令和3年4月16日～令和3年●月●日
公募委員	山中 文代	令和2年2月3日～令和3年●月●日
公募委員	仲嶋 正起	令和2年2月3日～令和3年●月●日

本検討審議会への諮問事項と基本的な考え方の整理

諮問書

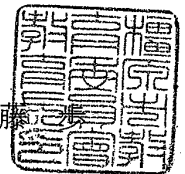


檀教総第 200 号

令和2年2月25日

檀原市教育施設再配置検討審議会
会長 様

檀原市教育委員会
教育長職務代理者 伊藤 様



諮 問 書

現在、檀原市立小中学校（以下「檀原市立学校」という。）は、小学校が16校、中学校が6校あり、今後、人口減少と少子化が更に進むことが予想される中、義務教育の機会均等や水準の維持・向上の観点を踏まえ、子どもたちが集団の中で切磋琢磨しながら学んだり、社会性を高めたりすることが難しくなる等の課題の顕在化が懸念されており、教育的な視点でこうした課題の解消を図っていくことが求められています。

また、檀原市立学校は人口急増期に集中的に整備されたため、施設の老朽化も課題となっており、今後20年で多くの建物が建築後60年を経過し、建替時期を迎えることから、今後の維持補修や更新費用なども勘案して、見直しを図らなければなりません。

つきましては、檀原市公共施設等総合管理計画を踏まえつつ、檀原市教育施設再配置基本方針に基づき、限られた人材や財源等をより効果的・効率的に活用して、檀原市立学校を計画的に再編整備し、再編後の充実した教育活動の実現に資するため、下記の事項について諮問いたします。

記

諮問事項

- (1) 2025年度までの檀原市立学校の再配置実施計画（第1期）に関する事項
- (2) 再配置実施に伴って生じることが想定される諸課題への対応に関する事項

基本的な考え方の整理

本検討審議会で諮問事項を検討していただくにあたっての、基本的な考え方を整理して示します。

檀原市教育施設再配置基本方針

平成31年3月に、教育施設の適正規模や適正配置などの基本的な考え方を中心に再配置の進め方などを示した檀原市教育施設再配置基本方針を策定しました。

基本的な考え方

規模に関する考え方

- ・40人（小学1年は35人）1学級の学級編制を行い、学校あたり12～18学級を檀原市の適正な教育施設の規模とします。

配置に関する考え方

- ・概ね4kmまでの範囲を檀原市の小学校の通学距離とします。
- ・概ね6kmまでの範囲を檀原市の中学校の通学距離とします。

よりよい教育環境の整備に際して留意すべき事項

- ・再配置に伴って施設を整備する際には、近年の教育内容・方法に適應する改修を行い、魅力ある学校づくりを行う。
- ・余裕教室を他の公共施設と複合化して活用する場合には、各施設の管理区分の明確化や総合的な防犯・防災対策等に留意して、地域とともにある学校づくりを行う。
- ・過渡期における小規模校は地域とのつながりを活かした学習・体験活動の充実や他校との連携を構築するなど、他の教育施設との教育環境に差が生じないように努める。

再配置を進めるうえでの留意事項

再配置対象校の検討

- ・再配置は学校あたりの学級数が11学級以下となる小規模校から検討を進めます。
- ・学校の統合は、原則として学校区が隣接する学校同士で実施するため、適正規模校であっても隣接する学校の小規模化により、統廃合の対象校となることもあります。

再配置における施設整備

- ・再配置の実施の際は、施設整備として施設の老朽化対策や、統合後の様々な教育環境への対応も同時に実施します。
- ・再配置の対象とならない学校についても、老朽化に応じた長寿命化改修※1を実施します。
- ・施設整備の内容は、「檀原市学校施設整備基本計画」に基づき実施します。

再配置実施計画の策定

- ・実施計画については地域と十分に協議しながら策定を進めていきます。
- ・実施計画は基本方針の対象期間38年間のうち、10年ごとに策定します。

学校の統廃合など、再配置の実施

- ・統合校の校舎は原則として、統合先の既存施設を活用します。
- ・通学区域が統合により広域化する場合は、スクールバスなどの通学支援も検討します。また、通学路の変更が生じる場合は通学上の安全対策に十分に配慮します。
- ・統合により新たな教育環境になる場合は、子どもたちの様子に十分気を配り、きめ細やかな指導ができる体制を目指します。
- ・跡地の利活用については、地域の実情もふまえ、合意形成を図りながら進めていきます。

※1 長寿命化改修：建物の構造躯体の延命を図り、従来（60年程度）よりも長期（85年程度）にわたって建物を使用し続けることを目的とした改修工事方法。

第2期の児童生徒数推計値

推計値作成の方法

本来、将来人口は、教育施設再配置基本方針（以下、「基本方針」という。）と同じく、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の数値を使用すべきであるが、社人研の数値は5歳刻みの5年ごとに算出しており、基本方針のような大きな方向性を検討する際には適しているが、実施計画の検討に必要な、学校ごとの学年別の人口推計を予測するには適していない。

このことから、今回の推計方法は、社人研の推計値作成方法を参考に、教育委員会が独自で将来人口を推計し、将来の児童数を算出している。

＜学校区別の人口推計＞

平成27年度（2015年度）から令和3年度（2021年度）までの学校区ごとの年齢別人口を元に生存移動率を算出し、それを令和4年度以降の1歳児以上のスライド推計値（令和元年度の0歳人口が令和2年度の1歳人口にスライドすると仮定）に乗じて令和4年度以降の人口推計値を算出している。また、0歳児の人口については、15歳から49歳までの女性人口推計値を算出し、子ども女性比（女性人口に占める0歳人口の割合）を乗じて算出している。

＜児童生徒数推計＞

児童生徒数の推計は、令和3年度の各校区内の年齢別人口に占める校区内の学校へ通学する割合（就学率）を算出し、各校区の年齢別人口推計値に乗じている。

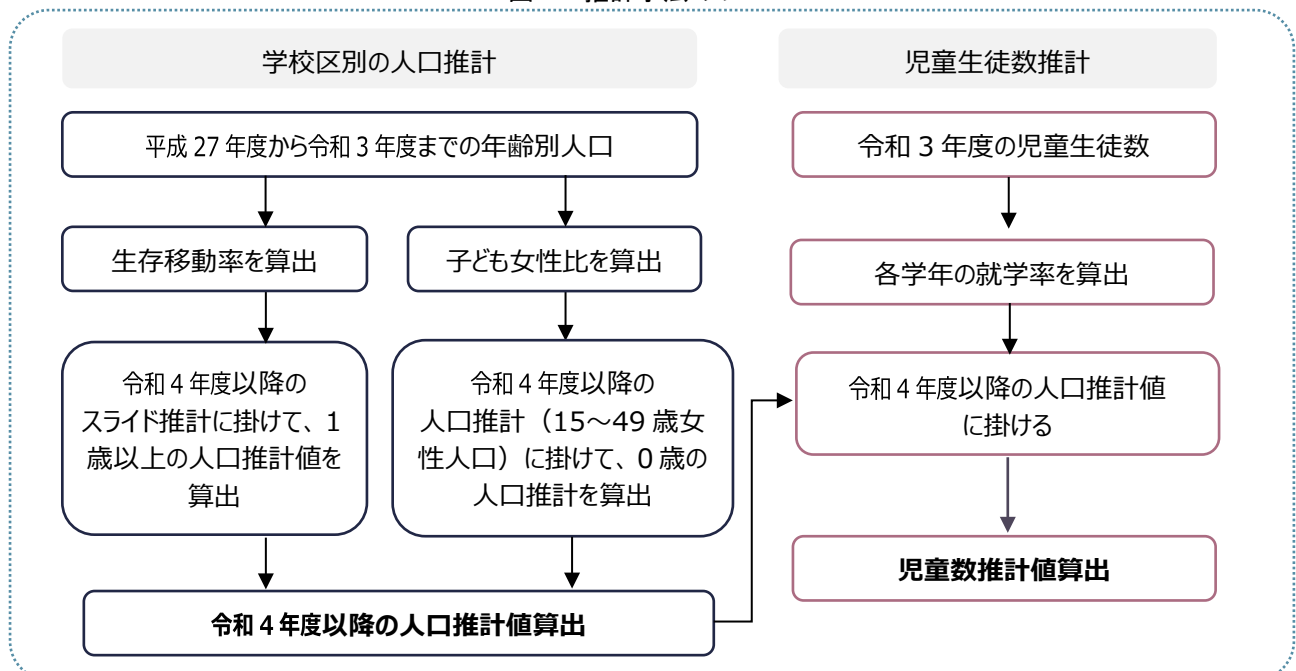
なお、これらの手法はあくまで、平成27年度から令和3年度までの人口動態の傾向が今後も続くと仮定した場合の推計値となる。

＜学級数推計＞

学級数推計は、児童生徒数推計の結果をもとに、各学年1学級あたり35人を上限とした試算結果を使用している。特別支援学級数は、令和3年度時点の学級数を一律の数値として推計値に使用している。

※学級数は、令和3年4月1日の「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」の一部改正により、令和3年から令和10年までに小学校2年生から毎年1学年ずつ35人学級となるよう計算。

図1：推計手法のフロー



児童生徒数推計値一覧

第2期に該当する期間の児童生徒数推計値は以下のとおり。

表1：各学校の児童生徒数推計値一覧

年度 学校名	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
1 畝傍南小	315	292	295	285	280	270	260	268	262	257
2 畝傍北小	245	248	246	242	240	242	229	228	224	222
3 鴨公小	172	183	185	185	177	165	165	158	156	153
4 晩成小	305	292	278	282	279	280	286	291	292	289
5 耳成小	406	380	383	374	376	366	353	349	343	336
6 今井小	361	359	352	343	349	349	351	360	362	365
7 真菅小	541	543	531	538	554	535	537	519	514	510
8 金橋小	496	504	500	480	473	461	451	436	425	417
9 香久山小	107	103	106	110	99	89	89	87	85	81
10 新沢小	148	154	147	145	138	129	125	113	108	103
11 白檀南小	77	62	58	56	43	47	46	49	46	44
12 耳成南小	571	534	515	491	482	481	471	490	484	479
13 真菅北小	479	467	456	446	431	440	430	424	416	410
14 畝傍東小	494	445	433	415	400	400	405	414	403	394
15 白檀北小	185	177	175	171	168	156	148	148	143	139
16 耳成西小	390	391	399	381	380	371	376	368	365	361
1 畝傍中	553	530	495	470	450	441	419	384	380	375
2 八木中	807	781	748	746	726	726	703	660	637	633
3 大成中	435	407	435	425	401	397	392	417	401	407
4 光陽中	298	282	291	298	302	309	295	302	287	282
5 白檀中	138	127	123	120	117	115	109	92	89	89
6 檀原中	464	444	429	405	399	392	366	360	366	368
全合計	7,987	7,705	7,580	7,408	7,264	7,161	7,006	6,917	6,788	6,714
小学校合計	5,292	5,134	5,059	4,944	4,869	4,781	4,722	4,702	4,628	4,560
中学校合計	2,695	2,571	2,521	2,464	2,395	2,380	2,284	2,215	2,160	2,154

学校別の児童生徒数および学級数の推計値

(1) 畝傍中学校区

学校名	年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
畝傍南 小学校 保有 教室数 24	児童数	315	292	295	285	280	270	260	268	262	257
	小1	56	38	51	50	49	48	47	46	45	44
	小2	52	50	34	45	44	43	42	41	41	40
	小3	51	55	52	35	48	47	45	45	43	43
	小4	56	51	54	52	35	47	46	45	44	43
	小5	43	56	51	54	52	35	47	46	45	44
	小6	57	42	53	49	52	50	33	45	44	43
	学級数	12	12	11	11	11	11	11	12	12	12
	特別支援学級数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	必要学級数	17	17	16	16	16	16	16	17	17	17
余裕教室数	7	7	8	8	8	8	8	7	7	7	
畝傍北 小学校 保有 教室数 21	児童数	245	248	246	242	240	242	229	228	224	222
	小1	48	37	38	38	37	37	36	36	35	35
	小2	39	51	39	41	40	40	39	39	38	38
	小3	38	38	50	39	40	40	39	38	38	37
	小4	45	39	39	51	39	40	40	39	39	38
	小5	40	42	36	36	47	36	37	37	36	36
	小6	35	41	44	37	37	49	38	39	38	38
	学級数	11	12	12	12	12	12	12	12	11	11
	特別支援学級数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	必要学級数	16	17	17	17	17	17	17	17	16	16
余裕教室数	5	4	4	4	4	4	4	4	5	5	
畝傍東 小学校 保有 教室数 24	児童数	494	445	433	415	400	400	405	414	403	394
	小1	63	57	74	73	71	69	67	66	64	63
	小2	66	60	54	70	69	67	66	64	62	61
	小3	87	70	64	58	75	74	72	70	68	67
	小4	87	83	67	61	55	72	71	69	67	65
	小5	86	89	85	68	62	56	73	72	70	68
	小6	105	86	89	85	68	62	56	73	72	70
	学級数	16	15	15	14	14	14	15	14	13	12
	特別支援学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	必要学級数	22	21	21	20	20	20	21	20	19	18
余裕教室数	2	3	3	4	4	4	3	4	5	6	
畝傍 中学校 保有 教室数 26	生徒数	553	530	495	470	450	441	419	384	380	375
	中1	179	164	141	156	143	133	136	107	131	129
	中2	185	190	173	149	165	151	140	144	113	139
	中3	189	176	181	165	142	157	143	133	136	107
	学級数	15	15	14	13	13	12	12	11	11	11
	特別支援学級数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	必要学級数	19	19	18	17	17	16	16	15	15	15
余裕教室数	7	7	8	9	9	10	10	11	11	11	

※ : 小規模校

(2) 八木中学校区

学校名		年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
鴨公 小学校 保有 教室数 17	児童数	172	183	185	185	177	165	165	158	156	153	
	小1	30	33	30	30	29	28	28	27	27	26	
	小2	36	26	29	27	26	26	25	25	24	24	
	小3	35	39	28	32	29	28	28	27	27	26	
	小4	28	32	36	26	29	27	26	25	25	25	
	小5	24	28	33	36	26	29	27	26	26	25	
	小6	19	25	29	34	38	27	31	28	27	27	
	学級数	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	
	特別支援学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	必要学級数	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	
	余裕教室数	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	
晚成 小学校 保有 教室数 22	児童数	305	292	278	282	279	280	286	291	292	289	
	小1	39	41	46	46	46	46	45	46	46	45	
	小2	52	43	46	52	51	52	51	50	51	51	
	小3	51	50	41	43	49	49	49	48	48	48	
	小4	44	51	49	40	43	48	48	48	48	47	
	小5	63	45	52	50	41	44	50	50	50	49	
	小6	56	62	44	51	49	41	43	49	49	49	
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
	特別支援学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	必要学級数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
	余裕教室数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
耳成 小学校 保有 教室数 22	児童数	406	380	383	374	376	366	353	349	343	336	
	小1	73	62	64	63	62	61	60	59	58	56	
	小2	68	70	60	62	61	59	58	57	56	55	
	小3	58	67	70	60	61	60	59	58	57	56	
	小4	69	57	66	69	59	61	59	58	57	56	
	小5	58	69	57	66	69	59	61	59	58	57	
	小6	80	55	66	54	64	66	56	58	57	56	
	学級数	14	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
	特別支援学級数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	必要学級数	19	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
	余裕教室数	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	

※ : 小規模校

学校名		年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
香久山 小学校	児童数	107	103	106	110	99	89	89	87	85	81	
	小1	13	13	14	14	13	13	12	12	12	11	
	小2	27	15	16	17	16	15	15	15	14	14	
	小3	22	25	14	15	15	15	15	14	14	13	
	小4	13	23	26	15	15	16	15	15	14	14	
	小5	16	13	24	27	15	16	17	16	16	15	
	小6	16	14	12	22	25	14	15	15	15	14	
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	特別支援学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	必要学級数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
余裕教室数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
耳成南 小学校	児童数	571	534	515	491	482	481	471	490	484	479	
	小1	84	60	82	81	79	78	77	77	76	76	
	小2	86	88	63	87	85	84	82	81	81	80	
	小3	87	83	85	61	83	82	80	79	78	78	
	小4	107	88	83	85	61	84	82	81	79	79	
	小5	102	108	89	84	86	62	85	83	82	80	
	小6	105	107	113	93	88	91	65	89	88	86	
	学級数	19	19	18	17	17	17	17	18	18	18	
	特別支援学級数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	必要学級数	24	24	23	22	22	22	22	23	23	23	
余裕教室数	1	1	2	3	3	3	3	2	2	2		
八木 中学校	生徒数	807	781	748	746	726	726	703	660	637	633	
	中1	249	260	247	248	238	248	224	196	224	220	
	中2	269	241	250	238	239	230	239	215	189	216	
	中3	289	280	251	260	249	248	240	249	224	197	
	学級数	22	21	21	20	19	20	18	18	17	17	
	特別支援学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	必要学級数	28	27	27	26	25	26	24	24	23	23	
余裕教室数	13	14	14	15	16	15	17	17	18	18		

※ : 小規模校

(3) 大成中学校区

学校名		年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
今井 小学校 保有 教室数 14	児童数	361	359	352	343	349	349	351	360	362	365	
	小1	52	45	52	52	53	52	53	54	54	55	
	小2	63	61	54	62	62	63	62	63	64	64	
	小3	58	63	62	54	62	62	63	62	63	64	
	小4	69	56	62	60	53	61	61	62	61	62	
	小5	66	68	55	60	59	52	60	60	60	60	
	小6	53	66	67	55	60	59	52	59	60	60	
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
	特別支援学級数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	必要学級数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	
余裕教室数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
真菅 小学校 保有 教室数 31	児童数	541	543	531	538	554	535	537	519	514	510	
	小1	82	100	88	87	86	85	84	83	82	82	
	小2	101	80	98	86	85	84	83	82	81	81	
	小3	72	106	84	103	90	89	88	87	86	85	
	小4	83	71	105	84	102	89	88	87	87	86	
	小5	101	83	72	105	84	103	90	89	88	87	
	小6	102	103	84	73	107	85	104	91	90	89	
	学級数	18	19	18	18	19	18	18	18	18	18	
	特別支援学級数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
	必要学級数	25	26	25	25	26	25	25	25	25	25	
余裕教室数	6	5	6	6	5	6	6	6	6	6		
大成 中学校 保有 教室数 27	生徒数	435	407	435	425	401	397	392	417	401	407	
	中1	138	129	140	126	106	139	120	130	125	125	
	中2	125	151	142	155	139	117	153	132	142	138	
	中3	172	127	153	144	156	141	119	155	134	144	
	学級数	13	12	12	12	11	11	10	12	12	12	
	特別支援学級数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	必要学級数	17	16	16	16	15	15	14	16	16	16	
	余裕教室数	10	11	11	11	12	12	13	11	11	11	

※ : 小規模校

(4) 光陽中学校区

学校名	年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
金橋 小学校 保有 教室数 27	児童数	496	504	500	480	473	461	451	436	425	417
	小1	79	87	77	75	74	73	71	70	68	67
	小2	89	81	89	79	77	76	75	73	72	69
	小3	79	85	77	85	75	74	72	71	69	68
	小4	91	78	83	75	83	74	72	71	69	68
	小5	79	94	80	86	78	86	76	75	73	72
	小6	79	79	94	80	86	78	85	76	74	73
	学級数	18	18	18	18	18	18	18	17	15	14
	特別支援学級数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	必要学級数	23	23	23	23	23	23	23	22	20	19
余裕教室数	4	4	4	4	4	4	4	5	7	8	
新沢 小学校 保有 教室数 20	児童数	148	154	147	145	138	129	125	113	108	103
	小1	23	31	23	22	21	20	19	18	17	17
	小2	31	22	30	22	21	20	19	18	18	17
	小3	25	30	22	29	21	21	20	19	18	17
	小4	21	25	29	21	28	21	20	19	18	17
	小5	28	21	24	29	21	28	21	20	19	18
	小6	20	25	19	22	26	19	26	19	18	17
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	特別支援学級数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	必要学級数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
余裕教室数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
光陽 中学校 保有 教室数 24	生徒数	298	282	291	298	302	309	295	302	287	282
	中1	97	92	95	103	94	103	89	102	87	85
	中2	91	103	98	102	111	100	110	95	109	93
	中3	110	87	98	93	97	106	96	105	91	104
	学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	特別支援学級数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	必要学級数	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
余裕教室数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	

※ : 小規模校

(5) 白檀中学校区

学校名	年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
白檀南 小学校 保有 教室数 14	児童数	77	62	58	56	43	47	46	49	46	44
	小1	6	7	9	9	8	8	7	7	7	6
	小2	3	6	7	9	8	8	7	7	7	7
	小3	21	4	6	7	10	9	8	8	8	7
	小4	10	20	3	6	7	9	8	8	7	7
	小5	13	11	21	3	6	7	9	9	8	8
	小6	24	14	12	22	4	6	7	10	9	9
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	特別支援学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	必要学級数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
余裕教室数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
白檀北 小学校 保有 教室数 22	児童数	185	177	175	171	168	156	148	148	143	139
	小1	29	23	26	26	25	24	23	22	21	21
	小2	37	30	24	27	27	26	25	24	23	22
	小3	26	33	27	22	25	24	23	22	22	21
	小4	33	30	38	31	25	28	27	27	25	25
	小5	29	31	28	36	29	24	26	26	25	24
	小6	31	30	32	29	37	30	24	27	27	26
	学級数	7	6	7	7	7	6	6	6	6	6
	特別支援学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	必要学級数	10	9	10	10	10	9	9	9	9	9
余裕教室数	12	13	12	12	12	13	13	13	13	13	
白檀 中学校 保有 教室数 24	生徒数	138	127	123	120	117	115	109	92	89	89
	中1	41	48	38	38	45	36	32	28	33	31
	中2	41	40	47	37	37	44	35	31	27	32
	中3	56	39	38	45	35	35	42	33	29	26
	学級数	6	4	4	4	4	4	4	3	3	3
	特別支援学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	必要学級数	8	6	6	6	6	6	6	5	5	5
余裕教室数	16	18	18	18	18	18	18	19	19	19	

※ : 小規模校

※白檀南小学校と白檀北小学校については令和6年度に統合予定

(6) 檀原中学校区

学校名	年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
真菅北 小学校 保有 教室数 30	児童数	479	467	456	446	431	440	430	424	416	410
	小1	80	76	75	74	73	71	70	69	68	67
	小2	61	79	75	74	73	72	70	69	68	67
	小3	84	60	77	73	73	71	70	69	68	67
	小4	82	85	60	78	73	73	72	70	69	68
	小5	83	82	85	60	78	73	73	72	70	69
	小6	89	85	84	87	61	80	75	75	73	72
	学級数	17	17	17	17	17	18	15	14	13	13
	特別支援学級数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	必要学級数	24	24	24	24	24	25	22	21	20	20
余裕教室数	6	6	6	6	6	5	8	9	10	10	
耳成西 小学校 保有 教室数 21	児童数	390	391	399	381	380	371	376	368	365	361
	小1	56	68	64	63	62	61	61	60	59	59
	小2	66	52	63	60	59	58	57	57	57	56
	小3	62	69	55	66	63	62	61	60	60	59
	小4	80	63	71	56	68	64	63	62	62	61
	小5	59	83	66	73	58	70	67	65	64	64
	小6	67	56	80	63	70	56	67	64	63	62
	学級数	13	13	14	13	12	12	12	12	12	12
	特別支援学級数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	必要学級数	17	17	18	17	16	16	16	16	16	16
余裕教室数	4	4	3	4	5	5	5	5	5	5	
檀原 中学校 保有 教室数 26	生徒数	464	444	429	405	399	392	366	360	366	368
	中1	166	136	123	143	130	115	118	124	121	119
	中2	140	169	138	125	145	133	116	120	126	123
	中3	158	139	168	137	124	144	132	116	119	126
	学級数	13	13	13	12	12	11	10	10	11	11
	特別支援学級数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	必要学級数	17	17	17	16	16	15	14	14	15	15
	余裕教室数	9	9	9	10	10	11	12	12	11	11

※ : 小規模校

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」 中間報告【概要】

～Schools for the Future 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体で学びの場として創造する～

1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、新しい時代の学校施設の在り方を議論

第1章 新しい時代の学びの姿**(1) 社会情勢の変化**

⇒社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
⇒新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

(2) 「令和の日本型学校教育」の姿

⇒中央教育審議において、新しい時代の初等中等教育の在り方を検討
⇒教育再生会議において、ポストコロナ期における新たな学びの在り方を検討

学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

(3) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

- 新学習指導要領の着実な実施
- 9年間を見通した義務教育の在り方
- 学校における働き方改革の推進
- 地域社会や関係機関等との連携・協働
- GIGAスクール構想、ICTの活用
- 多様な教育的ニーズのある児童生徒
- 少人数による指導体制の整備
- への対応

第2章 学校施設の課題**(1) 新しい時代の学びへの対応の必要性**

- ポストコロナ時代における学校施設という実空間の役割
⇒児童生徒にとって安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能、社会性・人間性を育む社会的機能を有するなどの学校の持つ役割・在り方を再認識
⇒ポストコロナ時代において、子供たちがともに集い、学び、生活する学校施設という実空間の価値を捉え直す必要

●学びのスタイルの変容への対応

⇒ICTの活用などにより、学級単位で一つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだけでなく、学びのスタイルが多様に変容していく可能性が拡大

(2) 学校施設の機能面等における現状と課題

- これまでの学校施設の計画、教室面積、多目的スペース、空調設備の整備状況 等

(3) 学校施設の安全面等における現状と課題

- 防災・減災、国土強靱化、耐震対策・老朽化した施設の実態、維持管理 等

(4) 公的ストックの最適化等における現状と課題

- 国・地方の財政状況、適正規模・適正配置等の実態、複合化・集約化の状況 等

第3章 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

Schools for the Future

「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

「未来思考」の視点

- ① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという**固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す**。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。
- ② 教室環境について、**単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）をもつ**。
- ③ 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、**画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）をもつ**。
- ④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、**関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する**。

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）

全ての子どもたちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿

◆ ◆ ◆
「未来思考」をもった上で、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿を示す。

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『**学び**』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『**生活**』『**共創**』の空間を実現する。

また、学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『**安全**』『**環境**』の確保を実現する。

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

学び

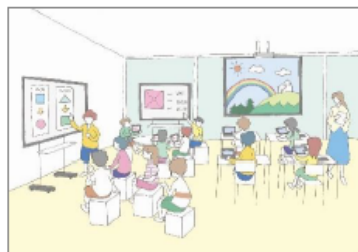
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、**柔軟で創造的な学習空間を実現**

⇒学習空間を、均質で画一的なものから柔軟で創造的なものに転換
(教室空間の改善・充実に関する創意工夫の例)

- ・1人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室の整備 (イメージ①)
- ・多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応 (イメージ②)
- ・ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用 (イメージ③)

⇒読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備 (ラーニング commons)

⇒教職員の教材製作空間 (スタジオ)、コミュニケーション・リフレッシュの場 (ラウンジ) の整備



イメージ①



イメージ②



イメージ③

生活

新しい生活様式を踏まえ、**健やかな学習・生活空間を実現**

⇒居場所となる温かみのあるリビング空間 (小教室・コーナー、室内への木材利用)
⇒空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

共創

地域や社会と連携・協働し、**ともに創造する共創空間を実現**

⇒地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
⇒地域活性化等の観点から、他の公共施設等との複合化・共用化等を促進

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

安全

子どもたちの生命を守り抜く、**安全・安心な教育環境を実現**

⇒老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
⇒避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

環境

脱炭素社会の実現に貢献する、**持続可能な教育環境を実現**

⇒屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) を推進
⇒環境や地域との共生の観点から学校における木材利用 (木造化、室内利用) を推進

新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）

Schools for the Future 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体で学びの場として創造する子供たちにとって「明日また行きたい学校」となるために、そこに集う人々にとっても「生き生きと輝く学校」となるために



学び

単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿



学び

学校施設全体を学びの場として捉え、階段状の空間を、ステージやプロジェクタ等を備えた発表・表現の場としていく姿



学び

学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿



学び

製作・編集のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿



生活

子供たちの居場所となる小空間・ベンチ等の配置や、木材を活用して温かみと潤いのあるリビング空間としていく姿



生活

断熱性能を高めて空調設備が設置された体育館を、大人数での多様な活動も展開できる大空間として活用していく姿



共創

地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿



共創

他の公共施設（図書館等）との複合化・共用化を図り、多様な「知」を集積する共創空間としていく姿

第4章 新しい時代の学びを実現する学校施設整備の推進方策

新しい時代の学びに対応した学校施設の姿(ビジョン)の実現を図るため、国と学校設置者は、ともに「未来思考」をもって、互いに連携・分担しつつ、一体的に取り組む推進していくことが重要

(1) 学校設置者における推進方策

●長寿命化改修を通じ、新しい時代の学びに対応した教育環境向上と老朽化対策を一体的に推進

⇒安全・安心な教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びに対応していくため、長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を積極的に推進

(教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備例)

- ・余裕教室活用法(3教室分を2学級分の学習空間として利用)
- ・改修＋一部増築型(改修と合わせた一部増築により不足するスペースを確保)
- ・家具配置工夫型(家具配置の工夫による学習空間を確保、教室と連続した空間の活用)
- ・特別教室コンバージョン型(教科に捉われない創造的な学びの空間に転換)等

●首長部局と協働し、中長期視点から計画的・効率的な整備を推進

⇒まちづくり部局や財政部局等の首長部局との横断的な検討体制を構築
⇒中長期的な将来推計を踏まえ、計画的・効率的な施設整備を推進(将来変化に柔軟に対応できる施設、将来的な他用途への転用、複合化・共用化など)

●多様な整備手法等も活用し、施設整備と維持管理を着実に推進

⇒PPP/PFI手法を含め、民間活力を活用した施設整備・維持管理を積極的に推進

●学校関係者等の参画により、豊かな学びの環境整備を推進

⇒設計者と学校関係者が参画した施設づくりを促進(プロポーザル方式の導入促進等)

(2) 国における推進方策

●学校施設スタンダードの提示

⇒具体的な学校施設の姿(ビジョン)を提示

●学校施設整備の優先度の可視化と計画的・効率的整備の促進

⇒短期的に対応すべきもの、中長期的なスパンで取り組むべきものを整理
⇒横断的な検討体制を構築した計画的・効率的な整備の推進

●学校施設整備のための財政支援制度の見直し・充実

⇒新時代の学びに対応した教育環境向上と老朽化対策の一体的な推進や学校施設のZEB化推進等のため、国費による十分な財政措置
⇒新時代の学びに対応した国庫補助単価や既存の補助制度の見直し(小規模な教室環境整備、学校施設の複合化へのインセンティブ)

●学校施設整備・活用推進のためのプラットフォームの構築

⇒具体的な実践につながる整備事例・ノウハウの蓄積・発信
⇒「学校建築アドバイザー」など専門家による相談体制の構築
⇒好事例を着実に横展開するための現場同士のネットワーク化

●先導的モデル研究を通じた新たな学校施設モデルの提示

⇒具体的・実践的な学校施設モデルを提示

●学校施設整備指針の改訂

(3) 本協力者会議における継続的な検討事項

引き続き、以下の事項について検討を継続

- ・学校施設スタンダード案
- ・学校施設整備の優先度の考え方の整理
- ・長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に整備する事例の収集・分析、及びそれを踏まえた適切な財政支援制度の在り方
- ・学校施設整備・活用推進のためのプラットフォームの仕組み
- ・先導的モデルのフォローアップとそれを通じた学校施設モデル案の検討
- ・学校施設整備指針の改訂案